

筑豊地区研究大会報告

筑豊地区小学校長会事務局

大会主題 「豊かな社会力を身に付けた子どもを育て、信頼に応える学校をつくる校長の理念と指導性」を追究し、小学校教育の推進に努める。」

1 期日及び会場 平成30年8月8日(水) イイヅカコミュニティーセンター

2 日 程

(1)開会行事(13:30~14:10)

- | | | |
|---------|---|-----------------------------|
| ① 開会の言葉 | 筑豊地区小学校長会理事 | 小峠 英人 |
| ② 国家斉唱 | | |
| ③ 主催者挨拶 | 筑豊地区小学校長会長 福岡県小学校長会長 | 立山 俊治 小森 晃 氏 |
| ④ 来賓挨拶 | 福岡県教育庁筑豊教育事務所主幹指導主事 筑豊地区町村教育委員会連絡協議会長 飯塚市教育委員会教育長 | 奥 浩幸 氏 福澤 秀昭 氏 西 大輔 氏 |

(2)総 会(14:10~15:00)

- ① 議長選出
- ② 議 事
 - 1 平成29年度 事業報告
 - 2 平成29年度 会計決算報告
 - 3 平成30年度 役員報告
 - 4 平成30年度 事業計画案及び予算案提案
 - 5 その他
 - ・退職校長紹介、代表挨拶並びに記念品の贈呈
 - ・新会員の紹介

(3)記念講演(15:10~16:40)

演 題 「社会的投資としての子どもの貧困・貧困の連鎖への取り組み」
講 師 NPO法人エデュケーションエキュープ 代表理事 草場 勇一 氏

(4)閉会行事(16:40~16:50)

次期開催地区挨拶及び閉会の言葉 田川市小学校長会長 道高 修一

3 記念講演の内容

| |
|--|
| 演 題 「社会的投資としての子どもの貧困・貧困の連鎖への取り組み」 講 師 NPO法人エデュケーションエキューブ 代表理事 草場 勇一 氏 |
|--|

(1) 私たちの活動について

- 私たちのミッション
誰もが何でもなれる社会を目指して
- 私たちのビジョン
教育分野でICTを活用し、質の高い学びの機会を低コストで提供することで、子ども達の社会自立をサポートする
- 私たちのロジックモデル
子ども達が社会に出たときの自立をサポートする

(2) 子どもの貧困・貧困の連鎖の現状

- 子どもの相対的貧困率
- 子どもの進学率・・・貧困の状況にある子どもの進学率は比較的低い
全世帯の子どもの現役大学等進学率 73.2%
生活保護世帯の大学等進学率 33.1%
ひとり親家庭の子の大学等進学率 58.5%
児童養護施設の子の高校卒業後進学率 24.0%
- 貧困がもたらす40歳時点の格差
貧困がもたらす格差は長期に影響し、貧困を再生産している
- 貧困による学力格差「小4の壁」
学力格差は早期に発生しており、子ども個人の自己責任論は当てはまらない

(3) 社会的投資としてのインパクト

- 私たちが取り組む社会課題
～社会的投資としての貧困への取り組み
日本は急激に人口が減っていく新たな時代へ
子どもの貧困を放置した場合の社会的損失は大きい
ノーベル経済学賞受賞者であるシカゴ大学ジェームス・ヘックマン教授は、米国の就学前の人的資本投資(教育投資)の収益率は15～17%と推計
- 教育への公的支出(国際比較)
日本の高等教育に関する私費負担は OCED 内でワースト2位に
- 子どもの貧困と社会的損失
・貧困の連鎖×人口の減少＝人材・市場の縮小、社会保障費の増加
(支えなければならない対象者増)
・子どもの貧困対策により、現在 15 歳の子どものうち貧困の状況にある子どもの進学率及び高校中退率の現状が改善した場合、生涯所得の合計額が2.9兆円増え、政府の財政が1.1兆円改善するとの推計がある。
子どもの貧困対策の放置 ＝ 「社会の損失」 子どもの貧困対策の推進 ＝ 「未来への投資」
我が国にとって最大の資源である「人」 特に未来をつくる力である子どもを育てていくことが重要

(4) 私たちの活動のご紹介

- 背景
経済的な理由で「塾・習い事」を諦めた保護者が約69%

○ 活動内容

・スタディプレイス事業(自主事業)

NPO が運営する e-ラーニングを活用した学習塾・フリースクール・通信制高校を兼ねる「スタディプレイス」を展開

・子どもの学びと居場所づくり事業(委託事業)

福岡市が実施している生活困窮世帯の中学2・3年生を対象とした学習支援事業

・スタディプレイス事業 ～事業内容～

ラーニング教材を活用した次世代型個別指導塾・フリースクール・通信制高校として、小中高生を対象に低料金で一人ひとりの学力に合わせた学習カリキュラムを提供。

○ 総合型学習拠点「スタディプレイス」

eラーニングなど ICT を活用した学習塾、フリースクール、通信制高校、AO 入試支援の機能を持つ小学生～高校生までの幅広い学びに対応する複合型の学習拠点の事業モデル化。

認定 NPO としてフリースクールと学習塾を併設することで、

1) 教室スペースを有効活用

2) 生徒の学校復帰をサポートすることで学校とのネットワークを強化

○ スタディプレイス事業 ～新教室の開校～

築31年の古い店舗のスケルトン物件をリノベーションの専門家のサポートにより、コストを抑えたカフェのような教室に

○ スタディプレイス事業 ～フリースクール部門～

福岡市初の奨学制度が利用できるフリースクール。現在、在籍生徒6名全員がスタディプレイスへの出席が公立中学校の出席扱いに

○ スタディプレイス事業 ～ひとり親奨学制度～

保護者の経済状況に応じた奨学制度を提供。現在、10名が奨学制度を利用。(学習塾事業で5名、フリースクール3名、プログラミング2名)

<奨学制度 A(70%免除適用世帯)>

・中3の受験生と中2の不登校生 ・児童扶養手当受給世帯

・母親は事務職勤務 ・事務職の業務に加え夜間の仕事を追加

(5) 本質的な課題解決に向けて

○ 事業戦略

コレクティブインパクト型事業モデル

立場の異なる組織(行政、企業、NPO、学校など)が、組織の壁を越えてお互いの強みを出し合い、社会的課題の解決を目指すアプローチ。Strive together は、300以上の組織が協力して、子ども・若者の教育課題を解決する取り組み

<ゆりかごから就職までの期間で教育成果を改善する>

○ 長期目標

子どもの貧困や教育格差は国際的な社会課題

2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、子どもの割合を半減させる。

2030年までに、脆弱な立場にある子どもなどがあらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。

(6) その他

○参加者総数……………52名(校長)

○参加者の感想(抜粋)

・ 近年「子どもの貧困」が増え続け、日本の子どもの6人に1人は相対的貧困の状況にある。そのため

に、十分な教育機会を得られず、経済的な理由で高校や大学進学を諦めなければいけないという現実がある。このことから、講師の草場氏は、教育への投資は、少子化が進む日本にとって次世代を担う子ども達を社会に輩出していくために必要な社会的投資であると訴えられた。私も、「世の中から子どもたちの貧困をなくしたい」という理由で経済的に厳しい子ども達のサポートをする草場氏の姿に感銘を受けた。

- ・ 今回の記念講演では、今いろいろと社会的課題と言われる「子どもの貧困対策」についての取組として興味深く話を聞くことができた。特に、厳しい子どもの社会進出という長いスパンでのサポートが必要であるということは、ややもすると学校に登校させる支援だけという短いスパンでしか考えていなかった自分にとって有意義であった。

4 総括

- (1) 大会要項作成について
 - ・ 要項は、85部印刷。次年度に電子データとともに引き継ぐ。
 - ・ 前年度の資料が整理されており、要項作成も苦勞なくできた。
- (2) 会員・来賓案内(出欠確認)について
 - ・ 来賓案内は、FAX送信表同封し、集約しやすい形で行うことができた。
 - ・ 短期間に来賓の出欠確認ができ、準備がしやすかった。
- (3) 役割分担について
 - ・ 5月の早い時期から役割分担の周知を行っていたので、スムーズに運営できた。
 - ・ 飯塚市は小学校長会の人数が多いため、分担業務が少なくて済み良かった。
 - ・ 他地区の理事の方々への支援もあり、運営上の支障がほとんどなかった。
- (4) 講師及び講演内容について
 - ・ 講師料については、県の校長会の規定を参考に設定した。
- (5) 配布物・配付資料について
 - ・ 講師、弘済会とも早めに依頼していたため滞りなくできた。
- (6) 掲示物について
 - ・ 横断幕、垂幕、式次第等の準備については、前年度を参考に作成した。
- (7) 受付について
 - ・ 来賓等の対応、会員の受付等の業務もスムーズに行うことができた。
 - ・ 来賓も時間通りに到着していただいた。
- (8) 会場・駐車場等について
 - ・ 会場は、広すぎず、調整できたので良かった。
 - ・ 空調関係も問題な利用できた。ただ講師控え室のエアコンの効きが悪かった。
 - ・ 駐車場の確保が心配されていたが、来賓はコスモスコモンの駐車場の減免、一般は河川敷、飯塚小学校理運動場が使用できた。
- (9) 時間配分、進行について
 - ・ 予定時間より、早く進行した。
- (10) 機材等について
 - ・ マイク、プロジェクター等、トラブルもなく活用できた。
- (11) その他
 - ・ 会場設営を研修会当日行ったが余裕をもって準備できた。
 - ・ 飯塚市の校長会の組織が大きいので効率的に会の運営ができた。